

仙台大原簿記情報公務員専門学校  
平成 29 年度 学校関係者評価報告書  
(実施日 平成 30 年 6 月 27 日)

平成 30 年 6 月  
学校法人北杜学園  
仙台大原簿記情報公務員専門学校

## 学校関係者評価について

専修学校の学校評価については、学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・結果の公表に関する規定が設けられております。

専修学校としての責務を果たすべく、学校法人北杜学園仙台大原簿記情報公務員専門学校では、すべての活動・業務において、現状を点検してその改善を図るために学校自己評価に取り組み、「自己点検・評価報告書」を取りまとめてHPに公開しております。

本校に関係の深い方々からご意見を幅広くお伺いして、学校運営・教育活動等に反映させるべく、学校関係者評価委員会を設置し学校関係者評価を実施しております。評価委員の皆様からは多くの貴重なご意見をいただき、評価項目ごとに要約して本報告書に取りまとめました。「平成 29 年度自己点検・評価報告書」と併せてお読みください。

貴重なご意見は今後の施策・改善活動に反映させて、教育水準のさらなる向上に尽力して参りたいと存じます。関係の皆様には引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 6 月  
学校法人北杜学園  
仙台大原簿記情報公務員専門学校  
校長 鈴木 浩二

## 目 次

1. 学校関係者評価の実施方法について	3
2. 学校関係者評価委員会 評価委員	3
3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見	4
(1) 教育理念、目的、人材育成像	4
(2) 学校運営	4
(3) 教育活動	5
(4) 学修成果	5
(5) 学生支援	6
(6) 教育環境	6
(7) 学生募集	7
(8) 財務	7
(9) 法令等の遵守	8
(10) 社会貢献・地域貢献	8

## 1. 学校関係者評価の実施方法について

平成 29 年度学校関係者評価の実施にあたっては、文部科学省生涯学習政策局が平成 25 年 3 月に公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

学校関係者評価委員会は卒業生、経済・産業界、学識経験者等の外部関係者によって構成され、自己点検・評価結果の検証を行う。本校教職員との対話、学校見学等を通じて、教育活動や学校運営に係る課題を共有して、本校に対して意見・提言を行うことが期待されている。

学校関係者評価では、「平成 29 年度自己点検・評価報告書」に基づいて、その点検・評価内容について検証を行い、外部関係者である評価委員から本校に対する意見・提言が行われた。当該意見・提言は校長以下、教職員で組織する自己評価委員会が承り、評価項目ごとに要約して本報告書に取りまとめた。

## 2. 学校関係者評価委員会 評価委員

### 【学校関係者（敬称略）】

小形 美樹	仙台青葉学院短期大学 観光ビジネス学科 教授	
忌部 守人	イオンリテール株式会社 東北カンパニー 人事総務部長	
池田 東照	東北学院大学非常勤講師 元 宮城県大河原商業高等学校校長	
吉田 空	有限会社霞友会系事務所	(本校卒業生)
佐々木 有実	株式会社学園ファシリティーズ	(本校卒業生)

### 【委員会事務局（自己評価委員会委員）】

鈴木 浩二	仙台大原簿記情報公務員専門学校 校長
門田 勝	仙台大原簿記情報公務員専門学校 副校長
小関 哲也	税理士・会計士系学科 学科長
久保田 佳子	情報・ビジネス系学科 学科長
渡邊 和也	公務員系学科 学科長

### 3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見

#### (1) 教育理念、目的、人材育成像

##### 【現状及び課題】

- 教職員や学生には学園理念及び校訓等が根付いてきており、理念・目的に沿った職業教育が行われている。また、就職を最終目標に見据えた三段階教育法の導入、入社2～3年目と同等程度の知識・技能の習得、クラス担任制による面倒見の良い教育が実践できている。
- 学科ごとの育成人材像については定めてあるものの、学生に対して明確に示されていない。就職先の幅が広く、学生の目指す方向性がそれぞれ異なるため個別の資格取得や就職自体が目的となっている状況から育成人材像を伝えきれていない。
- 学園HP、学生手帳、学校案内冊子等を通じて、理念・校訓・学生憲章・カリキュラムの特色を掲載して紹介しているが、関係業界や保護者等広く周知がなされているかについては引き続き努力する必要がある。

##### 【関係者評価・意見】

- 卒業生の立場から、同じ学科内でも目指す進路・目標が異なるため、特に学科に拘る必要はないと考える。むしろ自分が学習した先に目指す職種を明確にする方が実際には効果的ではないか。
- 学校として育成人材像が明確であれば学科ごとに定める必要性はないと思う。但し学生は理念や目標を理解したうえで学ぶべきであり、教員は、入学時または進級時、日々の授業の際など、何らかの方法で学生に示す必要はある。本来は教員から言われて学ぶのではなく、学生自身が自発的に考えることが望ましい。
- 最初から目指す業界や就職先が決められると将来的に選択の幅が狭くなる危険性がある。ある程度緩やかな方が、学生にとっては望ましいという見方もできる。
- 関係業界や、入学生を送り出す側である高校に対しては理念や育成人材像をアピールする必要性があり、同時に理念や育成人材像、将来構想を実践するスタンスは崩すべきではない。高校や企業、または高校生に対する周知方法の1つとしては直接会って伝えるのが効果的であり、出張講義や企業訪問、高校訪問などが考えられる。

#### (2) 学校運営

##### 【現状及び課題】

- 理事会で決定された事業計画・経営方針は速やかに設置校に示達され、本校においても校務分掌及び職務権限に従って、その実施・推進に取り組む体制が整備されている。
- 教育活動に関する情報公開に関し、HPの構成面で不足を指摘されていた。現在は「保護者」「採用企業」「大学生・社会人」等に向けた情報提供ページを設置しているが、今後情報の質・量ともに段階的に拡充するよう取り組んでいく必要がある。また保護者に対しては保護者会を開催して情報提供を行っているが、保護者以外に対する情報公開が不足している。
- 学生のICカード（学生証）を活用した出欠管理については一定の成果が出ているがそれ以外の活用に関しては取り組みが不足している。情報システム化については改善目標レベルの段階からは程遠い状況にあり、引き続き取り組んでいく必要がある。

### 【関係者評価・意見】

- 情報システム化による業務の効率化に関する自己評価は厳しい評点であるが、I Cカードの活用並びに現在稼働中のシステム状況からすると「不適切」とまでは言えない。理想に近づけたいという意識は理解できるが、高すぎる目標設定ゆえに実態が正確に反映されていないとの印象を受ける。

## (3) 教育活動

### 【現状及び課題】

- シラバスの作成と学生への提示に関して、シラバスは作成してあるが学生への提示が不十分との指摘を受けていたものの、適切な改善策が実施できておらず継続的課題となっている。平成32年度から公開できるよう作業に取り掛かっている。
- シラバス公開に際しては、現在のシラバスをよりわかり易い表現に変えるなどの工夫が必要と考えている。大学のカリキュラムのように、シラバスを見て履修科目を選択する仕組みになっていないためテキストの目次のような表記になっており、とてもわかりにくい。公開するのであれば、シラバスを見た学生が学習の中身をイメージできるような魅力的な内容に変更したい。
- シラバス公開にあたっては、作業の関係上、全学年・全学科同じタイミングでの実施は難しいため、初めに1年生を対象として公開に向け取り組んでいく計画である。

### 【関係者評価・意見】

- シラバスの学生への提示に関して、大学は公開が原則であるが専門学校の場合、公開の範囲・対象をどうするかは専門学校ごとの事情によって異なるのではないかと。今後専門職大学等を目指すのであれば公開することになるだろうが、転換しないのであれば特に支障はないと思う。
- 学校という組織にとって、シラバスは学生との教育課程における契約のようなものであり、見た学生が理解できるか否かに関わらず公開する必要がある。
- 具体的な学習内容がわかりにくいシラバスであっても、見た学生や保護者が難しさや目標を感じ取ることに意義がある。簡単と感じる学習内容よりも、難しいと思われるような内容を公開する分には学校の評価は下がらない。
- シラバスを策定する目的と、シラバスを公開する目的を別の軸として捉え、それぞれの目的に合致したシラバス作成と公開に向けた工夫をしてほしい。

## (4) 学修成果

### 【現状及び課題】

- 就職指導に際しては、学生個々の能力・適性に応じた適切な就職を行い、かつ早期離職とならないことを旨とした上で、就職希望者の100%就職を目標としている。平成29年度の就職希望者数に占める就職内定者数は99.4%、特に重視している卒業者に占める就職者の割合は92.2%であった。
- 公務員試験合格状況については、1次試験合格率が96.1%、2次試験合格率が77.2%であった。

- 卒業生の社会的な活躍、キャリア形成の把握については、企業アンケートにより情報収集を行っている。また、卒業生講演会や合同企業説明会、業務説明会開催の機会を通じて、本校卒業生に対する評価、活躍等について適宜情報交換を行っているが、課題となっているアンケートの回収率及び情報量アップが改善できていない状況にある。
- 卒業生に関する情報収集については同窓会組織の活用が有効であると考えているが、本校では同窓会組織がなく、同窓会の起ち上げについても個人情報の観点等様々な課題を解決する必要があり困難な状況である。

### 【関係者評価・意見】

- 卒業生・在校生の社会的活躍や評価を把握しているかについて、「企業アンケートや企業訪問、各種説明会の機会等を通じて情報収集しているにもかかわらず断片的な情報収集に留まっている」との現状を打破するためには、新たにマンパワーを投入するなどの措置が必要なのではないか。
- 同窓会組織の起ち上げに関しては、卒業生数、個人情報開示に対する警戒感等を考慮すると簡単に発足できないという状況は理解できる。

## (5) 学生支援

### 【現状及び課題】

- 保護者との連携に関して、本校では2ヶ月ごとに、学業成績及び出欠状況を保護者宛てに郵送している。Jアラートによる緊急情報が発表された経緯から、緊急時の対応や連絡体制についても追加して通知した。また出席状況が芳しくない学生や素行に問題のある学生については、保護者を交えた面談を適宜実施し、問題の早期発見・解決に努めているほか、本校の教育理念や特色、教育成果や最新の就職活動状況等を伝えるべく保護者会を全学科で開催している。
- 学生の経済的側面に対する支援体制について、学費支援策の一環である「特別納付金延納制度」を継続して実施した。高等学校に対するPRを積極的に行い、経済的負担のために進学を断念せざるを得ない学生への一助としている。
- 学生相談室は学園が設置校共通で設けており、相談室の開室日程を教室に掲示するなどして利用促進に努めている。なお、平成29年度の本校学生の相談室利用状況は6件で、前年度に比べて相談件数は減少したが、1回あたりの相談時間、及び1人あたりの相談回数は増加している。対人関係や心身症状を主訴とするケースが多く相談室で対応できるレベルを超えるケースも増えている（件数並びに主訴内容は相談室調べ）。

### 【関係者評価・意見】

- 学生支援に関する報告については、委員からの評価・意見等はありませんでした。

## (6) 教育環境

### 【現状及び課題】

- 施設・設備の整備に関して、メディアセンター内の映像学習機材、教室の机・椅子の入れ替えを行い学習環境の改善を行った。加えてスポーツ系コース新設に伴いスポーツスタジオを整備した。

- インターンシップのあり方について時間制を採る本校では授業に組み入れるのが困難なことから、従来通り長期休暇を活用することで意見が一致した。なお、スポーツ系コースの新設により今後スポーツに関する実習施設やインターンシップ受け入れ先の開拓が必要となる。
- 社会情勢（テロ発生）を考慮して休止した海外研修については希望者を対象に実施の方向で計画している。
- 防災体制整備について、学生並びに教職員参加による避難訓練の実施のほか、災害時必要品の備蓄を徐々に進めているが、適正な備蓄量の把握が課題となる。

#### 【関係者評価・意見】

- インターンシップのあり方について、授業に組み入れることができない理由として時間制を採用していることが挙げられているが、それ以外にもインターンシップを単位認定するための評価基準の整備や教務内規程の整備が求められる。
- 防災体制の整備に関して、ほとんどの事業所等で災害発生に備えた避難誘導や消火訓練を定期的実施している。災害時必要品については備蓄を行っていない事業所等もある。

### （7）学生募集

#### 【現状及び課題】

- 入学案内、各種ガイドブック等に掲載する資格取得、公務員試験合格及び就職実績は最新かつ正確な情報を提供し、高校生及びその保護者の進路選択の判断を誤らせることがあってはならないと考えており、学生募集を管轄する学園の広報センターと連携して募集活動を行っている。
- 学生納付金については前年度据え置きとするなど、他の専門学校と比較して妥当な金額水準の維持に努めている。

#### 【関係者評価・意見】

- HPに掲載している情報（資格試験合格実績者数）のなかで整合性が取れない箇所があり、単純な記載ミスと思われる。対応を望む。

### （8）財務

#### 【現状及び課題】

- 学園全体の財政基盤については、財務情報から見て健全と言える状況にある。その健全な財政基盤を根拠に、新規事業計画の遂行及び校舎・体育施設新設等の施設設備の充実に可能にしている。
- 私立学校法によって義務付けられている事業報告及び財務情報の公開については、学園HP上に掲載されている。

#### 【関係者評価・意見】

- 財務については、委員からの評価・意見等がありませんでした。



## (9) 法令等の遵守

### 【現状及び課題】

- 平成 24 年度より自己点検・評価を実施する体制を整えて実施している。学校運営・教育活動等向上のための P D C A サイクルを確立して、引き続き実現可能な事項から改善に取り組んでいく。

### 【関係者評価・意見】

- 法令等の遵守については、委員からの評価・意見等がありませんでした。

## (10) 社会貢献・地域貢献

### 【現状及び課題】

- 公共・公益団体等からのボランティア募集については、校内掲示板にポスター掲示を行うなど、学生に対して積極的に案内・奨励推進を行っているが、資格・検定試験や就職試験日程等の関係により参加者は増加せず改善されていない状況である。

### 【関係者評価・意見】

- ボランティアを通じて様々な経験を積むことは重要であり、公務員や企業の採用面接対応のことなども考慮すると積極的に奨励するのが望ましい。東日本大震災の後ボランティアの意識が高まったが、最近は薄れてきているのではないかと感じる。本校に限らず道徳教育における「徳」の教育が欠けているように思う。